

教会の歩みを覚えて感謝と祈り

主よ

気がつくとき、そここゝで、春がとびらをたたいています。冬の寒さをさけて閉じこもっていた私たちの体と心が、少しずつ和らぎ始めます。鳥はさえずり、川はせせらぎ、チューリップの新芽は土を破り出てこようとしています。

すばらしい自然の営みに包まれたこの場所に

あなたが私たち醒醐教会を建てて下さったことを心より感謝します。

そして五〇年にわたり

その喜びの時も試練のときも

あなたのお心がいとも共に有り

あなたのみ守りに包んでいて下さったことを感謝します。どのようなあゆむべきか、どこに向かつて歩むべきか、私たちはいつも迷い、また多くの失敗を冒します。

しかし、私たちの弱さをもあなたは何度も恵みに変えてくださいました。

力は弱さのなかでこそ十分に發揮される」(二コリント二・九)との、み文の言葉の恵み深さを

教会の歩みを覚えるこの日、改めて胸に刻みます。

どうか主よ、これまでと同じように、これからも

私たちと共に歩んでください。

人の思いではなく、あなたの思いが実現しますように。そのために私たちをよく用いてください。

あなたのみ栄えがここに、この教会に

そして私たち教会を通してこの地域に、この国に

いよいよ輝き渡りますように。

私たちがいつも助け合いつつ

あなたに向かって進んでいくことができますように。一人ひとりの人生がいともあなたと共にあり

それぞれが置かれた場所で教会の枝とされますように。とくに家族の中に福音がひろがっていきますように。教会創立記念の日、主のみ名によって祈ります。

(二〇一七年三月二日創立記念礼拝より、津田記す)